

# 社会福祉法制

		単位数	履修方法	配当学年
		4単位	R or SR	3年以上
科目コード	DH4111	担当教員	志田 民吉	



※本科目のスクーリングは隔年開講予定です（次回開講予定は平成29年度）。

## ■科目の内容

社会福祉法および社会福祉主要法律（児童、老人、障害者関連福祉法）についての理解を目指します。児童福祉法や老人福祉法、身体障害者福祉法等に定める福祉サービスの供受給制度に共通する事項をまとめて規定している社会福祉法の理解を中心に、各種の福祉サービス法が定めているサービスの提供のしくみやサービスの内容について理解をする手順で学んでいただければ、と思います。

## ■到達目標

- 1) 社会福祉法（制度）の体系について説明ができる。
- 2) 社会福祉法を概説できる。
- 3) 社会福祉法以外の主な社会福祉制度について概説ができる。
- 4) 社会福祉法制度の改正動向について説明ができる。
- 5) 社会福祉法制度の係わる判例（裁判所の見解）を検索し、判決文の読解ができる。

## ■教科書

- 1) 社会福祉法講義ノート（2015年版）
- 2) 河野正輝・増田雅暢・倉田 聡編『社会福祉法入門（第3版）』有斐閣、2015年

**（教科書利用上の注意）** 近年、福祉関連法規が毎年改正されています。教科書の改訂が追いつかないため、法規の改正を、自身で最新の社会福祉六法やインターネットで調べていただければと思います。

**（最近の教科書変更時期）** 2015年4月

## ■在宅学習15のポイント（教科書1）の内容を基に作成しています）

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	我が国の社会福祉法の動向	平成7年「社会保障勧告」以降、我が国の社会福祉法（制度）は、特に高齢者福祉関連法を中心とした法律改正が急務である。社会福祉法の講義に先立ち、近時の改正法律のいくつかを例に挙げながら、改正の訳と今後の動向について解説する。  キーワード：社会保障と税の一体改革	社会福祉法は、憲法が規定する社会権的基本権の表現の一つである。後述する人権のところでは詳細を述べるが、社会権は当該社会の力量を越えて国民に利益を保障することは出来ない。この理が理解できれば、社会福祉法の今後の動向についての理解を助けてくれることになる。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	社会福祉と法（総論） 1. 社会福祉と法	社会福祉法は、「社会福祉」と「法」から成り立っている法律科目であるから、先ず“社会福祉”とは何か“法”とは何か、について学習する。  キーワード：社会福祉、法	社会福祉と法との関連を理解し、社会福祉の法体系について学ぶことで、我が国の社会福祉の全容を窺い知る。
3	2. 社会福祉法の歴史① 日本の法の由来	制度は思想と関連し、思想は文化と関係して形成される。我が国の法の歴史を学び、今日の我が国の社会福祉法（特に現行憲法の社会権規定）の体系に至る道程を理解する。  キーワード：法学、公法、私法、社会法	今日の社会福祉法体系に至る経過を理解する。契約制度は市民法（私法）の象徴的存在である。“法”という概念そのものの理解が社会福祉法の理解の前提として重要になる。法学の振り返り学習が必要。
4	②社会福祉法の歴史	第1回目の講義内容と併せて、昭和25年、同37年、平成7年の社会保障制度審議会勧告と平成10年のいわゆる社会福祉基礎構造改革などを中心に述べていく。  キーワード：社会保障制度審議会勧告、社会福祉基礎構造改革など	社会福祉基礎構造改革などの一連の改革法、とりわけ平成24年の社会保障と税の一体改革の意味と内容を知り、今後の我が国の社会福祉法の方向を窺い知る。
5	③社会福祉法と社会権的基本権	基本的人権の理解を確認しながら、社会権的基本権さらには社会福祉法体系との関連について、1回目、2回目の学習の内容を深化させて“社会福祉権利体系（社会福祉としての利用者の利益のまとめ）”について学習する。  キーワード：社会福祉、人権、権利、判例	人権あるいは権利の用語の使い分け方、社会福祉の現場で日常的に使用している“権利”を法律上の用法に添って使えるように学ぶ。
6	社会福祉と法（各論） 1. 社会福祉法①社会福祉法の概要	主要な社会福祉法（体系）制度について学習する。各種の社会福祉法（児童、高齢者、障害者など）に共通する、主として社会福祉行政の運営と管理に関する法律“社会福祉法（旧社会福祉事業法）”について学習する。関連法律として民生委員法、各種の国家資格法などを内容とする社会福祉の基盤や資源についても概説する。  キーワード：社会福祉法、措置、契約、権利擁護など	上記の昭和25年勧告内容を振り返りながら、社会福祉行政の運営管理の基本事項を確認しながら、民生委員制度や社会福祉事業に係わる関連法律についても学ぶ。
7	②社会福祉と民事裁判	平成12年の法改正で、福祉サービスの利用制度として契約方式が導入された。社会福祉と契約との関連性について学習する。  キーワード：社会福祉、契約	社会福祉は公法（国家と個人との関係規範）、契約は私法（個人と個人との関係規範）である。両者の関係をどのように扱うのかについて学ぶ。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	2. 生活保護の概要	生活保護法の概要を学習し、併せてホームレス自立支援法の概説も行う。  キーワード：生活保護、就労、ホームレスなど	憲法が保障する「健康で文化的な最低限の生活」を具体的に定めている生活保護法を学びながら、それらの“健康”とか“文化的”とか“最低限度”の意味を考えながら学ぶこと。
9	3. 老人福祉法の概要①	高齢者の国連原則の逐条概説と老人福祉法の規定との関連性について学習する。  キーワード：高齢者の国連原則	老人福祉法の理念は、高齢者の国連原則の各条の反映で、同じものである。我が国の老人福祉論の多くは、老人福祉法の解釈について制度と実践の視点を混同したものが多く見られる。社会福祉は制度と実践の車の両輪、と言う意味を考えながら学ぶこと。
10	3. 老人福祉法の概要②	老人福祉法の概要と介護保険法との関連及び介護保険制度のしくみや権利性について学習する。  キーワード：介護保険法など	老人福祉行政は、老人福祉法と介護保険法を中心として執り行われている。二つの法律の関係や高齢者の国連原則を読解しながら、我が国の高齢者福祉制度・政策の在り方について考える視点を持って学ぶこと。
11	4. 障害者福祉法の概要①	障害者の権利条約と我が国の障害者福祉法制度との関連について学ぶ。特に、権利条約批准以降の国内関連法の改正動向と意義について学ぶ。  キーワード：障害者の権利条約、社会参加など	障害者の権利条約は我が国国内関連法律の改正に大きな展開をもたらしている。条約の条項目と児童福祉法の条項目とを一覧表にして比較する意識を持って見比べてみる。
12	4. 障害者福祉法の概要②	障害者福祉は、身体障害者、知的障害者、精神障害者のそれぞれの法律が制定されている。併せて障害者基本法、障害者総合支援法の概説と上記三つの法律との関連について学習する。  キーワード：障害者福祉三法、障害者総合支援法	障害者総合支援法によって身体、知的、精神の各障害者福祉行政として給付するサービスの内容および提供の方法などが一元化されている。特に、老人福祉法と介護保険法との関連と比較して学ぶこと。
13	5. 児童福祉法の概要①	児童の権利条約に至る国連宣言などと我が国の児童福祉法制度について学ぶ。  キーワード：児童の権利条約、児童の最善の利益など	ジュネーブ宣言から始まり、権利宣言、権利条約と児童の権利に関する国連（連盟・連合を通じて）と我が国の児童の生育環境について比較しながら学ぶこと。
14	5. 児童福祉法の概要②	児童福祉法の概説と併せて母子寡婦福祉法の概説を行う。  キーワード：児童福祉法、母子寡婦福祉法など	児童といわゆる“大人（成人・者）”との関連について考えながら制度を学んでみる。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	6. 社会福祉と虐待法	現在、児童、高齢者、障害者のそれぞれの虐待防止法が制定されている。それらの概説と虐待防止法と社会福祉との関連について学習する。  キーワード：虐待と社会福祉など	一口に“虐待”といっても、どのような行為が虐待行為に該当するのか、その判断の基準や考え方について学んでみる。

## ■レポート課題

1 単位め	戦後（昭和20年8月15日以降）改正施行されたわが国の社会福祉関連法制度について、現在までの主要な流れについてまとめなさい。
2 単位め	社会福祉法の規定する苦情解決制度の意義についてまとめなさい。
3 単位め	「特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準」とは何かについてまとめなさい。
4 単位め	児童虐待の課題について、児童福祉法および関連法律をまとめなさい。

## ■アドバイス



テキストの歴史の部分を読んで、まとめてみましょう。



テキストの社会福祉法の解説の部分を読んでまとめてみましょう。特に苦情解決制度が福祉サービスの受給においてどのような役割を果たしているのか、あるいはどのような役割を果たすことを期待されているのかを考えながらまとめられるとよいと思います。



テキストの老人福祉法の解説を精読し、老人福祉施設についてまとめながら、法令集（社会福祉六法：福祉小六法＝中央法規やミネルヴァ書房などから発行されています）に載っています上記「基準」の内容を読み比べてみれば、まとめることができると思います。また、「基準」を設けることの意義について考えてみましょう。



テキストで児童福祉法および児童虐待防止法についての解説や法律についてまとめてみるとよいでしょう。新聞などでは児童虐待問題について特集や虐待事実の報道がされていますので、それらの記事等を引用しながら、児童虐待防止についての制度上の問題点などにも触れていただければよいと思います。

## ■科目修了試験 評価基準

それぞれの設題に対する記述内容の正確度が最も大切ですが、法律文章としての完成度も評価の対象として考えます（例えば、人権や権利の用語を、法律用語として適切に使用できているか）。

## ■参考図書

---

- 1) 志田民吉編著『改訂 法学』建帛社、2007年
- 2) 志田民吉編著『臨床に必要な人権と権利擁護』(福祉臨床シリーズ7) 弘文堂、2006年 (絶版：アマゾンのネット通販で古書の購入は可能です)
- 3) 志田民吉共著『里親制度の国際比較研究』ミネルヴァ書房、2004年
- 4) 社会福祉六法 (名称はいくつかあります)(中央法規出版、ミネルヴァ書房などから発行されています。最新年度版を用意してください)
- 5) 志田民吉共著『先進諸国の社会保障・ニュージーランド・オーストラリア』東京大学出版会、1999年
- 6) 志田民吉・伊藤秀一編著『社会福祉サービスと法』建帛社、2007年 (絶版：アマゾンのネット通販で古書の購入は可能です)

以上の他は、テキストに引用している文献を参照してください。